



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月10日

上場会社名 ホッカンホールディングス株式会社
 コード番号 5902 URL <http://www.hokkanholdings.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東 札

(氏名) 工藤 常史
 (氏名) 山崎 節昌
 配当支払開始予定日
 TEL 03-3213-5111
 平成23年12月12日

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	91,568	1.9	3,847	△4.9	4,305	△5.0	2,350	19.8
23年3月期第2四半期	89,866	13.5	4,046	84.9	4,529	75.7	1,962	17.2

(注)包括利益 24年3月期第2四半期 2,266百万円 (26.1%) 23年3月期第2四半期 1,796百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	34.94	—
23年3月期第2四半期	29.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	134,041	42,558	29.9
23年3月期	124,398	39,371	30.7

(参考)自己資本 24年3月期第2四半期 40,048百万円 23年3月期 38,227百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	3.75	—	3.75	7.50
24年3月期	—	3.75	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	3.75	7.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	166,000	1.7	4,100	4.0	4,500	0.5	2,200	47.8	32.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) PT.HOKKAN INDONESIA 、除外 1社 (社名)
(注)詳細は4ページ「2.(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご参照ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	67,346,935 株	23年3月期	67,346,935 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	71,289 株	23年3月期	68,538 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	67,276,818 株	23年3月期2Q	67,282,116 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	P. 7
四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 継続企業の前提に関する注記	P. 9
(4) セグメント情報等	P. 9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災により大きく落ち込んだ生産や輸出については緩やかながら回復傾向にあるものの、電力供給の制約や原子力災害の影響、急速な円高の進行等により、景気の先行きは不透明感が強まる状況で推移いたしました。

当第2四半期連結累計期間の清涼飲料業界における状況につきましては、東日本大震災直後は製品不足に対する増産対応や、福島原発事故により発生した水道水への不安に対するミネラルウォーターの需要増加がありましたが、7月以降につきましては、過剰在庫や電力総量規制の実施等により、一部で生産調整が行われる状況になりました。

また、夏場の天候につきましては、前年より10日ほど早い梅雨明けとなりましたものの、昨年の記録的猛暑には至らず、8月以降の需要は前年を割り込む状況で推移いたしましたため、業界全体では前年並みの結果となりました。

カテゴリー別では、ミネラルウォーターが大きく伸び、また、果汁・紅茶飲料が好調に推移いたしました。スポーツ飲料やコーヒー飲料、炭酸飲料につきましては前年を下回る結果となりました。

食品缶詰業界につきましては、一部で東日本大震災による缶詰需要の増加がありましたものの、農産缶詰、水産缶詰ともに夏場の天候不順の影響により原料を確保できず、食品缶詰業界全体としては前年を下回る結果となりました。

なお、海外製品の輸入につきましては、国内の原料、資材の供給不足により、前年に比べ増加する結果となりました。

(容器事業)

飲料用スチール空缶につきましては、主力の缶コーヒー分野の市場が低調に推移するなか、当社グループでは積極的な営業活動を進めてまいりましたものの前年割れの結果となり、飲料用スチール空缶全体では前年を下回る販売となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、主要販売品目のうち農産缶詰は、主力のスイートコーン缶が天候不順の影響を受けるなど、農産缶詰全体においては前年を下回る実績となりました。また、水産缶詰につきましては、東日本大震災によりお客様の工場等が被害を受けるなどの影響がありましたものの、当社グループによる復興支援や代替充填先との調整をおこなってまいりました結果、水産缶詰全体では前年を上回る販売となりました。

以上の結果、食品缶詰用空缶全体では前年を上回る販売となりました。

つぎにプラスチック容器では、飲料用ペットボトル分野におきまして、大型ペットボトル、小型ペットボトルともに東日本大震災直後よりキャップ不足によるお客様の充填調整が発生したことと、電力総量規制による生産調整の影響等により前年を下回る販売となりました。

一方、無菌充填用プリフォーム（ボトル成形前の中間製品）につきましては、順調に受注を伸ばしたため、前年を上回る販売となりました。

食品用ペットボトルにおきましては、醤油および食用油分野において消費低迷の影響を受けたことなどにより、食品用ペットボトル全体では前年を下回る販売となりました。

一般成形品および加工品につきましては、緊急援助物資としての水袋などの受注が増加したものの、化粧品関連製品が震災の影響等により減少となりましたため、一般成形品全体としては前年を下回る販売となりました。

エアゾール用空缶につきましては、自動車関連品や塗料用品、工業用品等が景気低迷の影響を受け減少となりましたものの、家庭用消臭剤の販売が大幅に増加したことや新製品の受注による販売増、夏場の殺虫剤需要の増加などにより、エアゾール用空缶全体では前年を大きく上回る販売となりました。

また、美術缶につきましても、昨年同様お客様による他の包材への移行が進むなど業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、当社グループでは積極的な営業活動を進めてまいりました結果、美術缶全体では前年を上回る販売となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は、27,243百万円と前年同期に比べ0.3%の減少となりました。

(充填事業)

缶製品につきましては、4月以降順調に推移しておりましたが、7月、8月にお客様において在庫調整が実施された影響を受けたため受注が減少し、缶製品全体では前年を若干下回る販売となりました。

ペットボトル製品につきましては、アセプティック（無菌充填）を含む小型ペットボトル製品が、茶系飲料を中心に大型ペットボトル製品受注にシフトしたことと、夏場の天候が昨年の猛暑には至らず、8月以降、お客様による在庫調整も発生したため前年割れの結果となりました。しかしながら、大型ペットボトル製品では、新ラインの稼動に伴い麦茶の増産が寄与したため、前年を大きく上回る販売となり、ペットボトル製品全体では前年を上回る販売となりました。

以上の結果、充填事業全体の売上高は、63,470百万円と前年同期に比べ3.5%の増加となりました。

(機械製作事業)

機械製作部門につきましては、金型やカタログ商品である液体小袋充填機が好調であり、また、缶コーヒー用蓋の増産設備の受注や小型ペットボトルの成形ライン改造工事の受注に加え、自動車用クラッチ板への摩擦材貼り付け省力機械等も販売するなど、機械製作部門全体では堅調な受注結果となりました。

エンジニアリング部門におきましては、グループ内の安定的な受注の他、東日本大震災からの復旧工事等の受注などがありましたものの、前年を下回る実績となりました。

以上の結果、機械製作事業全体の売上高は、854百万円と前年同期に比べ28.5%の減少となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間における売上高は、91,568百万円と前年同期比1.9%の増加となり、経常利益は4,305百万円（前年同期比5.0%減）、四半期純利益は2,350百万円（前年同期比19.8%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は134,041百万円(前連結会計年度末は124,398百万円)となり9,642百万円の増加となりました。これは第2四半期が販売数量の増加する時期であるため、受取手形及び売掛金並びに電子記録債権が増加(27,460百万円から36,419百万円へ8,958百万円の増)したことが主な要因であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は91,482百万円(前連結会計年度末は85,026百万円)となり6,456百万円の増加となりました。これは借入金が増加(45,369百万円から47,816百万円へ2,447百万円の増)したこと及び、第2四半期は生産数量が増加し、原材料の購入が増加する時期であるため、買掛金が増加(27,682百万円から30,658百万円へ2,976百万円の増)したことが主な要因であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は42,558百万円(前連結会計年度末は39,371百万円)となり3,186百万円の増加となりました。これは主に四半期純利益2,350百万円の計上によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の通期の業績予想につきましては、平成23年8月10日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社の連結子会社である北海製罐株式会社と株式会社日本キャンパックは、インドネシアにおいて豊田通商グループとの合弁によりPT. HOKKAN INDONESIAを設立し、同社を当社の連結子会社といたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,968	3,751
受取手形及び売掛金	23,429	31,574
電子記録債権	4,031	4,845
商品及び製品	4,370	4,703
仕掛品	2,375	2,376
原材料及び貯蔵品	2,360	2,415
繰延税金資産	844	779
その他	2,361	3,153
貸倒引当金	△29	△22
流動資産合計	43,710	53,577
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,130	21,038
機械装置及び運搬具（純額）	21,024	21,939
土地	15,873	16,397
リース資産（純額）	729	862
建設仮勘定	4,795	2,304
その他（純額）	365	404
有形固定資産合計	63,919	62,947
無形固定資産	869	771
投資その他の資産		
投資有価証券	13,140	13,462
長期貸付金	1	0
繰延税金資産	664	892
その他	2,168	2,465
貸倒引当金	△77	△76
投資その他の資産合計	15,897	16,744
固定資産合計	80,687	80,463
資産合計	124,398	134,041

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	27,682	30,658
短期借入金	13,205	17,905
リース債務	345	265
未払法人税等	800	1,461
賞与引当金	723	730
災害損失引当金	400	71
その他	5,926	6,072
流動負債合計	49,084	57,166
固定負債		
長期借入金	32,163	29,911
リース債務	583	799
繰延税金負債	50	81
退職給付引当金	2,426	2,606
長期未払金	272	214
その他	446	702
固定負債合計	35,942	34,316
負債合計	85,026	91,482
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,086	11,086
資本剰余金	10,750	10,750
利益剰余金	16,192	18,297
自己株式	△22	△23
株主資本合計	38,006	40,111
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	214	205
繰延ヘッジ損益	6	△27
為替換算調整勘定	—	△240
その他の包括利益累計額合計	220	△62
少数株主持分	1,144	2,510
純資産合計	39,371	42,558
負債純資産合計	124,398	134,041

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	89,866	91,568
売上原価	79,408	81,015
売上総利益	10,458	10,553
販売費及び一般管理費	6,411	6,705
営業利益	4,046	3,847
営業外収益		
受取利息	0	8
受取配当金	161	144
持分法による投資利益	396	428
受取賃貸料	144	122
その他	164	157
営業外収益合計	867	861
営業外費用		
支払利息	331	299
その他	53	103
営業外費用合計	384	403
経常利益	4,529	4,305
特別利益		
固定資産売却益	0	—
貸倒引当金戻入額	19	—
災害損失引当金戻入額	—	93
その他	15	0
特別利益合計	34	94
特別損失		
固定資産除却損	402	279
固定資産売却損	129	—
減損損失	5	42
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	681	—
その他	7	2
特別損失合計	1,227	324
税金等調整前四半期純利益	3,336	4,075
法人税、住民税及び事業税	1,328	1,514
法人税等調整額	△179	△100
法人税等合計	1,149	1,414
少数株主損益調整前四半期純利益	2,187	2,660
少数株主利益	224	310
四半期純利益	1,962	2,350

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,187	2,660
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△391	△46
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	—	△352
持分法適用会社に対する持分相当額	0	3
その他の包括利益合計	△390	△394
四半期包括利益	1,796	2,266
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,576	2,066
少数株主に係る四半期包括利益	220	199

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	容器事業	充填事業	機械製作事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	27,320	61,350	1,195	89,866	—	89,866
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,451	—	1,547	7,999	△7,999	—
計	33,771	61,350	2,743	97,865	△7,999	89,866
セグメント利益	1,552	2,869	160	4,582	△535	4,046

(注) 1 セグメント利益の調整額△535百万円には、セグメント間取引消去79百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△615百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	容器 事業	充填 事業	機械製作 事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	27,243	63,470	854	91,568	—	91,568	—	91,568
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,733	—	2,624	9,357	—	9,357	△9,357	—
計	33,976	63,470	3,478	100,926	—	100,926	△9,357	91,568
セグメント利益又は損失(△)	992	3,394	177	4,564	△10	4,554	△707	3,847

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業であります。

2 セグメント利益の調整額△707百万円には、セグメント間取引消去△35百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△671百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。